

教職の魅力向上方策は

愛教大 教育関係者ら20人シンポ

学校と地域、社会の三者で教職の魅力向上を目指すシンポジウムが二月二十七日、刈谷市の愛知教育大で開かれ、教育関係者ら約二十人が参加した。

教員志望者の減少を食い止める方策を探ろうと開催。参加者からは、長くないがちな教員の勤務時間について「教員にも働き方改革が必要」という声や「地域住民と交流できる開かれた学校を目指すべきだ」という意見が出た。愛教大の

野田敦敬学長は「さまざまな角度からの意見を受験者数増加などの成果に結び付けたい」と話した。

愛教大では教員の養成と採用、研修を一体的に改革する「教職の魅力共創」事業を実施。民間で働いた経験のある教員や、教員志望の高校生と保護者などを対象にした地域フォーラムをこれまで開催しており、フォーラムでの声を今回のシンポジウムにも反映した。（小野開栄）



シンポジウムで意見を交わす参加者＝刈谷市の愛知教育大で